令和元年度(2019年度)

豊能町立光風台小学校　学校評価報告書

本校の教育目標

すべての児童にとって、楽しくてたまらない学校

重点目標：○　自分も他の人も大切にし、本音で人とつながる児童の育成 ○　自ら考え、挑戦を恐れずに学ぶ児童の育成

◎　めざす児童像

自分も他の人も大切にし、本音で人とつながる子	自ら考え挑戦する子	自分の身を自分で守ろうとする子 体を大切にする、元気でたくましい子

◎　つけたい資質・能力の育成のための下位目標

Ⅰ授業づくり

・自ら課題を見つけ、意欲的に取り組める。　・自分の考えを、相手に伝わるように説明できる。

・周りに流されず、自分で考えて行動できる。

Ⅱ豊かな人間性(集団づくり)

・温かい聴き方、優しい話し方ができる。　・互いの違いを認め合える。

・自分も他の人も大切にし、本音で人とつながれる。

Ⅲ健康・体力(からだづくり)

・行事、授業、あそびを通してからだが作れる。　・からだを大切にできる。

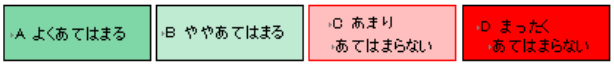
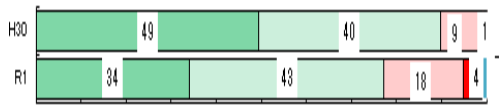
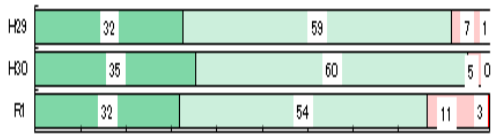
Ⅳ安心・安全

・自分の身を自分で守ろうとできる。

Ⅴ開かれた学校づくり

・保護者や地域と連携して教育活動を推進できる。

令和元年度(2019 年度)　豊能町立光風台小学校　学校評価報告書（その１）

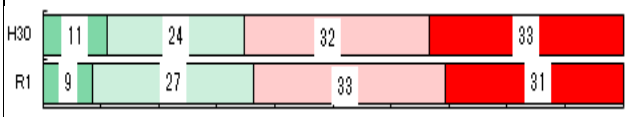
①設定目標	Ⅰ授業づくり
②本年度の取り組み状況	①グランドデザインに沿った児童にとって魅力ある授業の創造 ・授業研究（年６回の研究授業）、授業公開。授業評価。講師による校内研修。 ②指導形態の工夫（少人数指導） ・４・６年生の算数科、４～６年生理科で少人数分割とＴ．Ｔ、４・６年生国語科でＴ．Ｔ、５～６年生外国語でＡＬＴに加えて中学校専科加配のＴ・Ｔによる少人数指導など。 ・高学年での一部教科担任制の導入、学年団内での交換授業や合同授業。 ③光小スタンダードによる学習規律の確立 ④一斉朝読書を中心とした読書推進、家読（うちどく） ・水曜日の全校一斉の朝読書。図書委員会による本の紹介、低学年への本の読み聞かせ。 ・本のコーナーの設置や図書館だより。司書やサポーターによるブックトーク。 ⑤学力実態調査等の結果分析と指導改善 ・全国学力・学習状況調査（４月）・校内学力実態調査（全学年毎学期実施）・授業アンケート ⑥放課後(わくわく教室)及び長期休業中(サマー・ウインタースクール)の自学自習教室の実施。 ⑦次期学習指導要領を見据えた３～４年生外国語科の実施 ・３～４年で年間３５時間、５～６年は年間６０時間程度の外国語の授業。 ⑧町パイロット校としてプログラミング授業の先行実施（全学年） ⑨教職員アンケートを踏まえた授業改善（ふりかえりノート、自学習）
③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容	■　魅力ある授業  ＊児童アンケートは質問項目変更のため２年比較 子どもは授業分かりやすいと言っている　（保護者） 授業は、わかりやすい（児童）  授業は楽しい（児童） 授業で自分の考えを発表することがある（児童） 分かりやすい、楽しい授業については、保護者、児童いずれも８割以上の肯定的評価があった。一方、「よくあてはまる」の評価については、いずれも昨年度より低かった。特に外国語活動の評価がここ数年下がっており、教科化にそなえた魅力ある活動の開発が次年度の課題である。 ■　少人数指導の工夫(保護者)　（児童） 少人数授業など指導のあり方を工夫している  少人数、交換授業等の学習は良い方法である

③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容

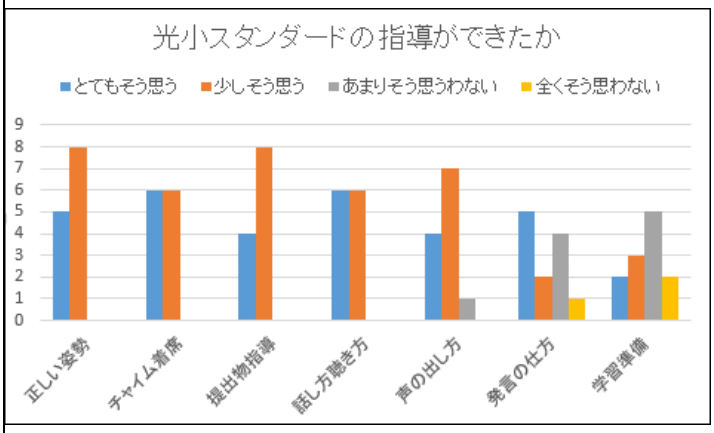
主に算数、理科で実施した少人数指導や分割授業は教職員の評価に比べて保護者や児童の評価は低くなっている。一方、算数の「校内実態テスト」記述式問題では、3学期末がコロナウイルスのため実施できなかったものの、1学期末、2学期末は無解答率が3年生6.7% →2.6%、4年生3.1%→1.4%、5年生4.9%→1.5%、6年生1.6%→2.2%と、6年生以外は改善した。

■光小スタンダードの指導

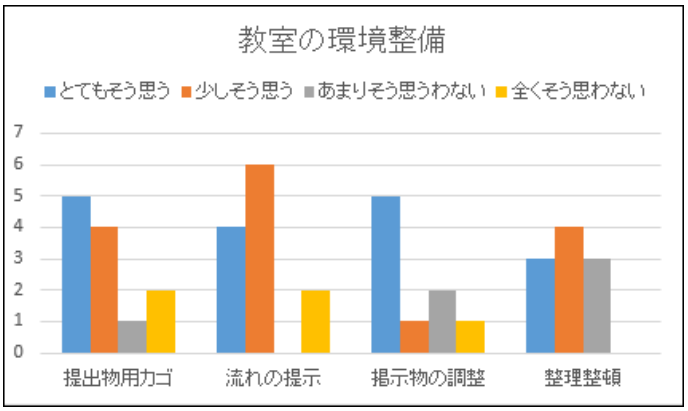
授業中に勉強以外のことで、友達とおしゃべりすることがある（児童）



４月の全国学力・学習状況調査の結果、昨年度同様、まだ３割強の児童（６年）が授業に集中できない時間があると回答していた。



４月の研修を経て、1学期末に教職員の指導状況アンケートを実施した。姿勢、チャイム着席、話し方聴き方については、肯定的評価が100%だったが、発言のさせ方、学習準備（低学年は難しいところがある）については組織的な取り組みにできなかった。

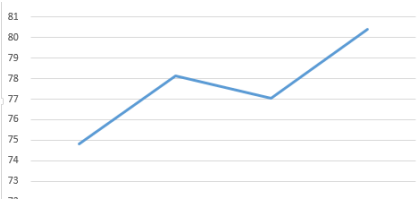


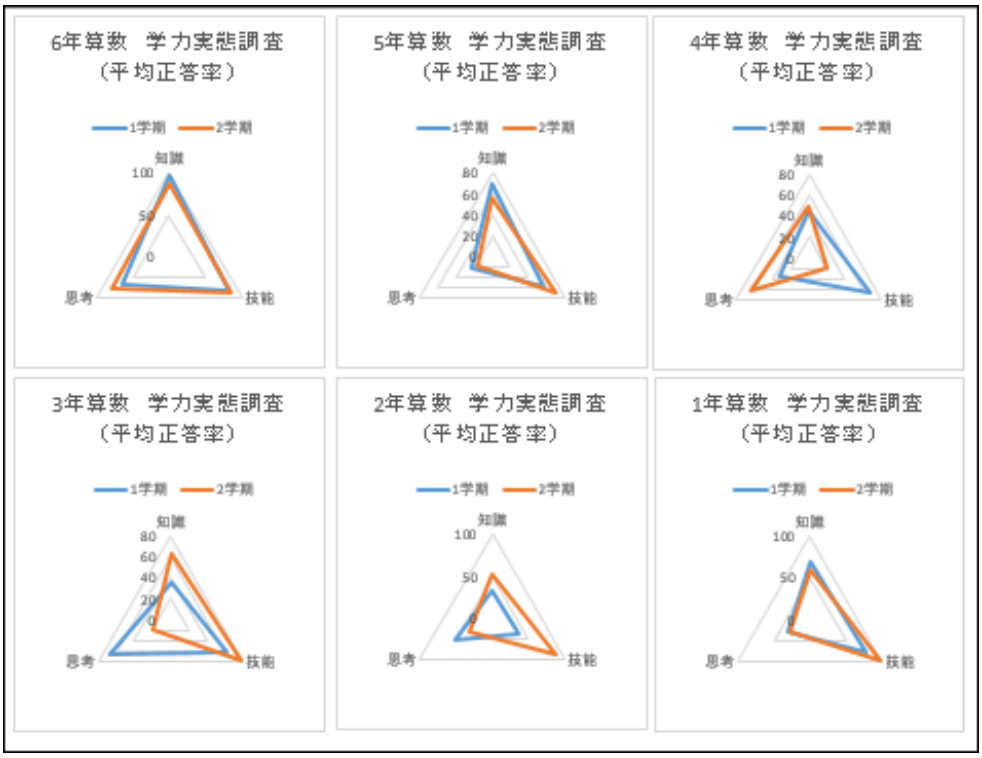
また、学年が変わっても、児童が戸惑わないよう教室の環境整備について再確認した。提出用のカゴの設置、一日の流れ、授業の流れの可視化、集中力を高めるための黒板横カーテンの使用、教室の整理整頓を確認して、学級をスタートさせた。同様に一学期末にアンケートを実施したが、全教員で徹底するところまでできていなかったため、2学期以降、改善を意識することが職員会議で確認された。

■読書推進

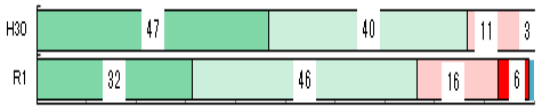
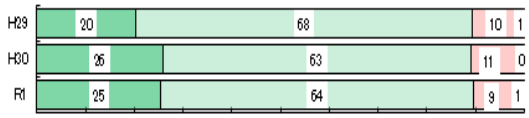
月2回の朝の読み聞かせ（低学年）、週一回の図書の時間、長期休業中のうちどく、図書委員会による本の紹介に加え、今年はサポーターによるストーリーテリングも実施した。聞き浸る経験が、想像力を養い、幅広い読書の一助になる。次年度も継続して実施する。学力向上担当の積極的な読書指導もあって、今年度4回のアンケートで、国語が好きな児童が少しずつ増えている。

国語が好き（３～６年）



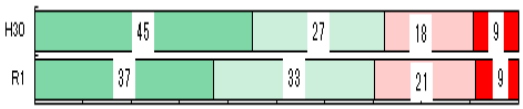
③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容	■学力実態調査等の結果分析  実態テストは休校の影響で二学期までしか実施できなかった。知識、技能、「数学的な考え方」（思考）の三観点のバランスを見ると、６年生以外は偏りがあることが分かる。４年生以外のどの学年も「数学的な考え方」（思考）の正答率が低く、単元の終わりに取り組ませた活用問題（チャレンジ問題）の成果はまだ出ていない。日常の授業の中で自分の考えを書く習慣をつけることで、無解答率は改善しているが、教科特有の用語を用いた説明のさせ方の指導を継続していきたい。 国語については、研究授業を３本実施し、自分の言葉で説明する力の育成をめざし、課題設定や発問、支援方法などを研究した。秋の公開授業では、全担任の指導案を夏季休業中に検討し、全クラスの授業を公開した。来場者アンケートでは「どの授業でも、自分の考えを表現する場があり、学校として取り組もうとしていることが伝わってきた。」など、高評価だった。１～２学期の実態テストでは言語の知識や理解は高かった一方、書く力には課題が見られた。教科横断的に、さまざまな場面で書かせたものを丁寧に評価し、朱書きしていく必要があることが全体で確認された。 ■外国語学習　今年度も「英語が好き」の児童の割合（68%）が減少しており、依然課題である。
④学校関係者評価	○学校が習熟度別学習や安心ルールなど授業の工夫をしているのは分かる。習熟度別のクラス編成などを工夫して改善してほしい。 ○全国学力・学習状況調査が以前より難しくなっているように感じる。話す力はあるように思うが高校入試で自己申告票を書かなければならないので、小学校から書く力を育成してほしい。自筆で書く機会が減っているので、書く習慣づけをお願いしたい。また図の読み方など文字以外を読み取る力も育成すべき。 ○外国語やプログラミングなど、塾に通っている児童との差を考慮しながら進めていくべきである。プールなどは到達度別に進めているはずで、レディネステストを行うことは問題はないのではないか。英語は教材の工夫をさらに行って欲しい。 ○「落ち着いて話を聞くことができている」と保護者が思えていない学級については、授業規律を再度徹底させてほしい。

令和元年度(2019 年度)　豊能町立光風台小学校　学校評価報告書（その２）

①設定目標	Ⅱ豊かな人間性(集団づくり)
②本年度の取り組み状況	①自分も他の人も大切にし、人とつながる児童の育成 ・毎週木曜日に学級実態交流。・毎学期１回のいじめ・体罰アンケート。 ・児童会・委員会等の充実。 ②人権をテーマにした（集団づくり）に関する研究授業、校内研修の実施 ③『あいさつ』運動の実施。児童会を中心とした朝の挨拶運動 ④聞き方、話し方、言葉づかいなど「安心ルール」を確認しての授業 ⑤係活動や委員会活動等を通した教室、廊下、花壇など学校の美的環境づくり ⑥花、野菜などの栽培、魚の飼育を通した命の教育の推進 ⑦特別支援教育・通級教室の充実。支援学級、通級、特別支援の個別支援を確認 ⑧スクールソーシャルワーカー等関係機関と連携したケース会議の実施 ・毎週木曜日に支援対策会議。・ｽｸｰﾙｰｼｬﾙﾜｰｶｰの支援を受けたケース会議を定期的に開催。 ⑨人権教育（集団づくり、障がい者理解、国際理解教育、男女共生、性教育、平和教育）の充実 ・低中高学年での人権集会　・『平和登校日』　・６年生の広島修学旅行・人権参観 ⑩道徳の時間の内容の充実　・公開授業や模擬授業の実施。
③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容	■「楽しくてたまらない学校」 子どもは、学校生活が楽しいと言っている（保護者）　学校生活が楽しい（児童）  「楽しい」に対して「よくあてはまる」と回答した児童が減少した。いじめアンケートで記述された友だちどうしのトラブルは、そのつど話し合い等で解決するよう取り組んだが、目標にあげている「本音で」つながる取り組みは結果として児童の「楽しい」につながっていない。集団づくりの研修を行い、担任だけでなく、チームで関わりながら、安心できる学級づくりを今後も進めていきたい。 ■　いじめのない学校 いじめ防止,体罰のない学校づくりの取組み（保護者）　いじめや体罰がないクラスづくり（児童）  年間３回のいじめアンケートに書かれた内容に係る指導や、保護者や児童が訴えるいじめ事象について、生活指導担当も加えた支援対策会議を中心に、真摯に対応してきたつもりだが、児童の強い肯定的回答の割合が若干減少した。事案に対する対応のフローを明確にしようと、年度内に何度か改善を試み、「児童による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている」と回答した教職員は80%を超えたが、担任クラス以外がなかなか見えておらず、組織的な動きになっていかないところが課題である。

<table>
<tr>
<td>③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容</td>
<td>

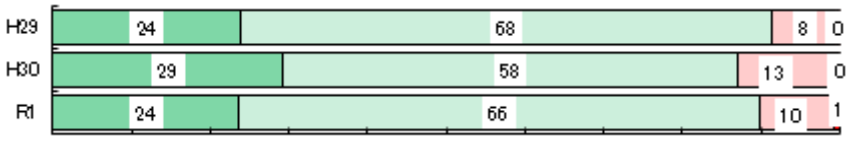
先生は子どものことについて相談にのってくれる（保護者）　気楽に相談できる先生がいる（児童）



保護者も児童も昨年より若干肯定的回答の割合が減少し、気軽に相談できる先生があまりいないと感じている児童も３割近くあった。カウンセリングマインドの研修を夏季に実施し、学級集団づくりの悩みを持つ教員に対して、ミドルリーダーによる具体的な助言ができるよう、学年部会を組織したが、成果が出なかった。今年度の結果を踏まえ、複数の目で児童の表情や行動の変化を見取り、学年団で相談に乗れるような体制を検討したい。

■　人権教育

学校では教育活動を通して心の教育（人権教育）が尊重されている。（保護者）



肯定的回答の割合は、９割あるが、今年度も10%の否定的評価を真摯に受けとめるべきである。同様に、「学校はいじめ防止等の取り組みを推進している」が昨年度同様89%で昨年度から改善できていないことに目を向ける必要がある。毎学期「いじめアンケート」を児童に実施し、個別指導・ケース会議を開くなど個々の子どもの問題に対応しているが、日々の言葉遣いや、からかうような言動を見過ごさず、丁寧に指導していくことでしか改善されない。すべてのクラスで「安全ルール」を作り、全校で取り組んでいきたい。

（２年６年ソーシャルスキル合同授業）

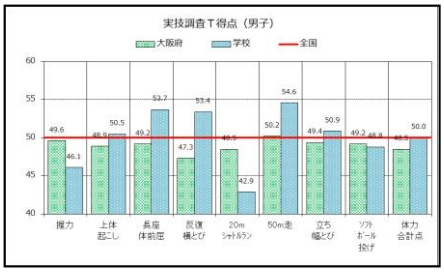
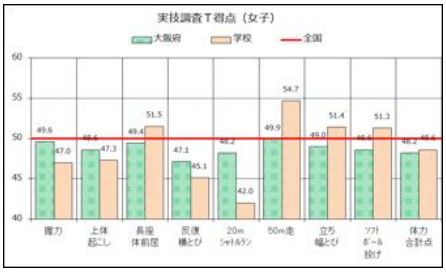
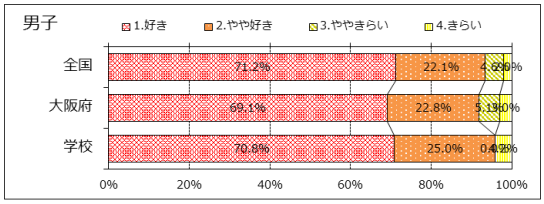
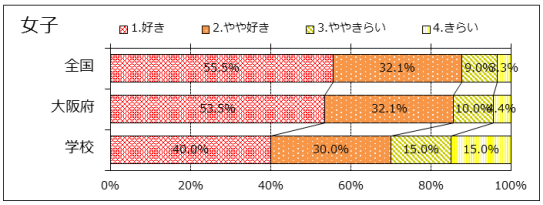
（４年人権研究授業）

</td>
</tr>
<tr>
<td>④学校関係者評価</td>
<td>

〇スマホやインターネット等の機器の使用時間が相変わらず全国平均や府平均より高い傾向にあるあるが、所持については、共働きで持たさざるを得ない場合もある。ＧＰＳ機能があるので持たせている場合もある。携帯所持許可願いの内容を保護者が、児童とともに内容の確認を丁寧に行うよう働きかけたらよい。
〇家庭のように学校での会話が弾んでいない場合は自己開示ができていないということ。「本音で」つながるのは難しい一方、単学級でしゃべらなくても良くも悪くも分かり合えているところがある。少人数の良いところを生かした地道な取組みを続けて欲しい。

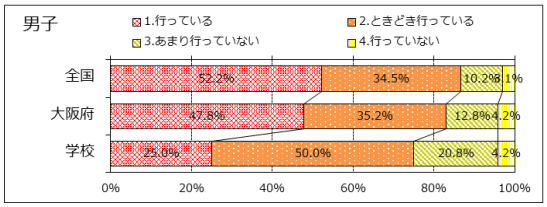
</td>
</tr>
</table>

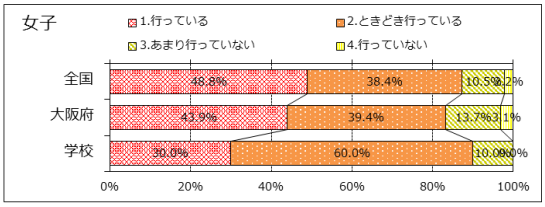
令和元年度(2019 年度)　豊能町立光風台小学校　学校評価報告書（その３）

①設定目標	Ⅲ健康・体力(からだづくり)
②本年度の取り組み状況	①運動会、体育の授業（低学年：パワーアップタイム、中学年：全国体力・運動能力調査項目の目標の設定、高学年：ペースランニングなど）での体力づくり ②光小遊び祭り等、遊びによるからだづくり活動の推進 ③食育の推進 ・栄養教諭による食育指導。きょうだい学級での給食交流会。保健給食委員会の活動推進。 ④保健指導の推進 ・給食後歯みがきタイム。養護教諭による保健の授業。保健給食委員会の活動推進。 ⑤町研などによる体育授業の研究、水泳指導の充実
③学校教育自己断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容	■　体力づくり 男子　実技調査　　女子　女子実技調査   今年度５年生で実施した全国体力・運動能力運動習慣等調査の結果、男子は、全国より高い項目が５項目、女子は４項目ある。長座体前屈と５０ｍ走は全国と比べて高い。疾走能力と柔軟性が高いといえる。一方、20m シャトルランは全国に比べ大幅に低く、持久力が低い。度数分布を見ると、全国・府と比べピーク時が低く、得点の高い割合も低い。握力は男女とも昨年度同様、全国・府と比べて最も低い結果となった。日常生活でものを握る動作は欠かせない上、球技や体操などのスポーツにも優位に働く握力をいかに鍛えるかを意識したい。 ■　運動習慣 〇運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。   男子に比べて女子の「好き」の割合が少ない。ここ数年同じ傾向であり、体育の授業や普段の生活で、意欲や自信を持たせる指導が必要であることがわかる。

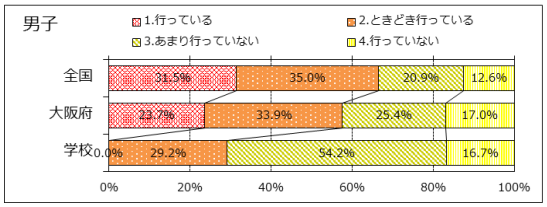
③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容

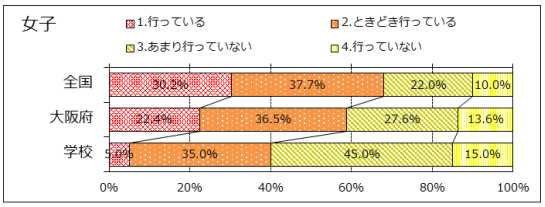
○体育の授業では、友達同士やチームの中で話し合う活動を行っていますか。





○　体育の授業では、授業の最後に今日学んだ内容をふり返る活動を行っていますか。

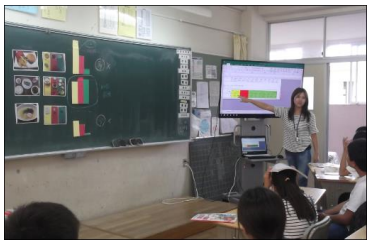




男女で違いがあるものの「話し合う活動」や「助け合ったり、役割を果たしたりする活動」も活発に行われていることが分かる。一方で「振り返り」活動があまりなされていないと感じている子が多く、単に運動能力の向上だけでなく、体力向上のために動くことの意義を実感させるよう目標を立て活動していくようにしたい。

■　食育の推進

今年度も栄養教諭が地場産物の積極的な使用を目標に月に一回の「とよのを食べる日」、ヤーコンなどの地場野菜の栽培活動などの取組みを進めた。また残食を減らす「食缶からっぽ賞」の表彰、夏休みクッキング課題、保護者対象の給食試食会＆食育研修に取り組んだ。加えて、今年は前年度よりも各教科に関連した授業を実施できた。５年の家庭科では、一単元まるごと担当することで見通しをもって行えた。２年生では、調べ学習や家庭と連携した食育、６年生では、養護教諭とＴＴで生活習慣病の単元を実施した。来年度は、学期に一回を目標に、給食時間中のミニ指導も全学年で行いたい。



（3 年　ヤーコンの栽培）（５年　学校で収穫した米での調理実習）（６年　家庭科で食育）

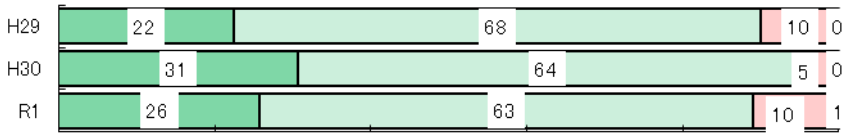
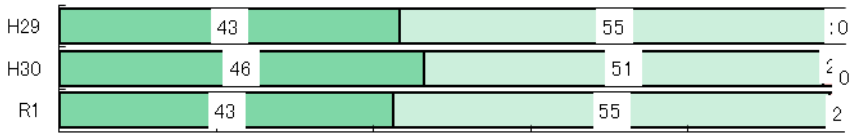
④学校関係者評価

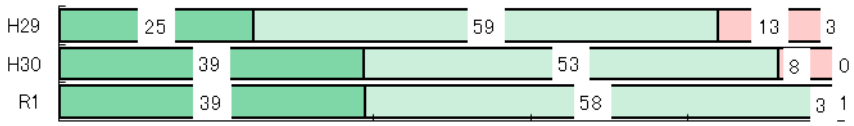
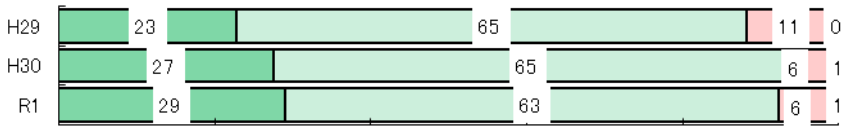
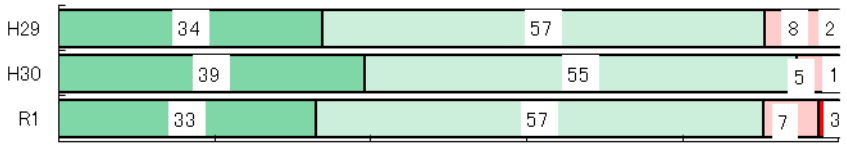
○握力が弱い。昔はマラソン大会があり、組織的な体力づくりが推進されていた。向上には目標が必要なので、各学級に任せるだけでなく、学校として、体育の授業での弱い部分の補強や、業間休みや金曜のクラス遊びの時間のあそびを通した体力づくりの取り組みを進めてはどうか。
○光小遊びまつり（児童会行事）に参加させてもらい、子どもたちがいきいきと活躍している姿を見ることができてよかった。
○給食はグローバルな料理もあり、保護者も参考になってよい。

令和元年度(2019 年度)　豊能町立光風台小学校　学校評価報告書（その４）

①設定目標	Ⅳ安心・安全
②本年度の取り組み状況	⑥登下校時の児童の安全確保 ・週１回の教職員の安全立ち番、登校時指導。 ⑦学期に一回の校内安全点検の実施 ⑧地域交通安全運動 ・地域の安全見守り隊や保護者による、毎朝及び定期的な登下校見守り活動。 ・スクールガードの方の定期的な登校時見守り活動。 ⑨安全マニュアルの作成と各種避難訓練、防犯教室の実施 ・災害発生時対応用「緊急カード」作成。下校訓練の実施。 ⑩救急救命講習、リスクマネジメント研修の充実 ・リスクマネジメント、大災害時想定の防災計画による研修、消防隊による救急救命講習。
③学校教育自己断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容	**■　交通安全　防犯　安全教育** 今年度も登下校時の児童の安全確保については、地区集会や集団下校時の教職員の安全立ち番や付き添い下校、地域の安全見守り隊や保護者による、毎朝及び定期的な登下校見守り活動、校区の防犯点検などを実施した。歩行のマナーや危険な横断については、PTA 校外指導委員が保護者当番を作成し、年間を通して登下校の見守りを実施しており、まとめられた報告が保護者に配付されている。今年度は登校班制度について、保護者にアンケートを実施し、結果的には継続することになったが、少子化の中、班が広域になり、安全上の課題もあることから、次年度は班の編成を小さくすることにした。 （交通安全教室） （サポーターによる登校見守り） （教員付き添い下校指導） 災害発生時に対応できるよう、訓練としての集団一斉下校や、学年下校を行っている。今年度も一学期に保護者引き取り訓練を実施した。点呼の仕方や保護者の誘導など、改善点の検証を行った。
④学校関係者評価	・登校班の問題は、班長の負担と集合時間などのルールの２つである。班長には経験値をあげるための学習として指導していくとよい。 ・登校時より下校時の方が、見守りが少なく危険である。学年でなるべくまとまって帰るなど、学校としての対策が必要ではないか。もっと地域の人の協力を得るとよい。 ・子供１１０番の旗が古くなっている。町に働きかけて、いざというときに子どもが駆け込みやすいようにした方がよい。

令和元年度(2019 年度)　豊能町立光風台小学校　学校評価報告書（その５）

①設定目標	Ｖ開かれた学校づくり
②本年度の取り組み状況	①　学校情報の地域への発信 ・授業参観４回（土曜参観１回）、学校公開１回（土曜）。学級懇談会４回。個人懇談会２回。家庭訪問。 ・学校だよりの地域、議会、サポーター等関係者への回覧。・学校ホームページ。 ②サポート・ボランティアや学生サポーター、学力向上指導員の授業支援（国語、総合的な学習、教科、道徳、クラブ委員会等） ②　学校教育自己診断の実施。報告資料（学校改善を含む）の作成、配布。 ③　学校協議会の開催（年３回）学校保健委員会の開催（年２回） ⑤ＰＴＡや地域各団体との健全育成事業の拡充 ・地教協や青育協やＰＴＡと連携した、ふれあいのつどい、秋の日のつどいへの参加。 ⑥学校支援地域本部を設置し、コーディネーターを中心とした支援活動 ・放課後の居場所、わくわく教室と留守家庭児童育成室との連携 ⑦行事、奉仕活動などPTA と連携した学校の活性化
③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容	■　保護者・地域連携 地域の方々の協力を得て学校教育を進めていることに共感できる（保護者） 学校は保護者・地域の声を教育に活かそうと努めている（保護者）  学校は保護者が授業を参観する機会を適切に設けている（保護者）  「地域の協力を得て学校教育を進めていることに共感できる」、「学校は保護者・地域の声を教育に活かそうと努めている」、「学校は保護者が授業を参観する機会を適切に設けている」とも、肯定的評価の割合が 90%程度と高い評価だったが、強い肯定的評価の割合は少し減少した。少子化や共働き世帯の増加で、保護者ボランティアの機会を減らさざるを得なかったり、サポーターの高齢化に伴う新しい人材の発掘が思うように進んでいなかったりすることが原因として挙げられる。サポーターの人脈を活用するなどして、積極的な人材活用を進めたい。また、保護者アンケートだけでなく、PTA 活動や学校公開などさまざまな機会に保護者・地域の皆様の声や思いに傾聴し、意見を学校運営に反映させていきたい。

③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容	■　保護者・地域への情報発信 学校は地震や台風など緊急の場合の対応について、適切に対応している（保護者）  学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である（保護者）  学校は学校便り・学年通信・学級通信・メール・HP 等、学校の情報を積極的に伝えている（保護者）  緊急時の対応については、昨年度 PTA 運営委員会や保護者アンケートなどを通じてご意見をいただきながら改善した結果、96%の肯定的評価を得ることができた。今年度は児童の急なケガなどの対応について医療機関への受信の希望欄を設けて迅速な対応ができるよう改善した。「保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」は、特に 1 年生の保護者にもわかりやすい文書をめざした。「学校の情報を積極的に伝えている」は 90%程度だった。共働き世帯に配慮し、保護者参加の行事はできるだけ早めに連絡する、低学年は学年・学級だよりを通じて準備物などの連絡をこまめにするようにし、緊急メールを活用するよう努めた。特に 3 学期の臨時休校の対応では、緊急メールが役立った。不達が出ないよう、小まめに確認作業を行い、未連絡がないようにしたが、次年度も一層、メールや HP を有効に活用していきたい。
④　学校関係者評価	○学校評価の報告については今後も評価項目を見直し、改善に役立つような資料になるとよい。 ○ＰＴＡや地域の団体との連携、支援協力がよくなされているが、地域の人材をもっと活用できるのではないか。 ○家庭訪問は担任と保護者の情報交換の場としても重要であるが、共働き家庭も増え、負担になっている場合がある。子どもも一緒に入って行うような訪問に意味があるのではないか。